

SAMPLE

【業界情報】 総合化学

# 総合化学: 業界概要

## 基本情報

業界名	総合化学(0051)		
所属業種	素材 > 化学・化成品		
業界定義	基礎化学原料から、川中、川下の各種化学製品まで、総合的に製造する。		
ROE	7.37%	ROA	4.24%
PER	12.81倍	PBR	1.11倍
売上高営業利益率	4.45%	自己資本比率	29.16%
株価前日比	3.05%		

## 業界概要

基礎原料から誘導品まで幅広く生産する大手メーカー

総合化学とはエチレンなど基礎原料からポリプロピレン、ポリエチレンなど誘導品まで幅広く手がける大手化学メーカーを指す。石油化学コンビナートの中核企業でもあり、三菱ケミカルホールディングス(三菱化学)、旭化成、住友化学、三井化学、昭和電工、宇部興産、東ソーなどが主なプレーヤー。

この7社の売上高の総計(2015年3月期、昭和電工は14年12月期)は約11兆9000億円。ただ、各社ともヘルスケアなど非石化事業の売上高がおよそ3兆円あるとみられる。各社の石化事業が全社売上高に占める比率は三菱ケミカルHD=54%、住友化学=47%、旭化成=41%、三井化学=57%、昭和電工=32%、東ソー=28%、宇部興産=33%。

日本市場が伸び悩む一方で中国や東南アジアなど海外新興市場では化学需要が拡大。国内勢は汎用化学品の生産拠点を海外に移しつつ、国内生産は特殊で付加価値の高い化学品に絞り込む動きを加速している。

汎用品の生産拠点再編に先鞭をつけた三菱ケミカルHDに続き、13年には住友化学がエチレンの国内生産停止を決定、宇部興産がナイロン原料のカプロラクタムの国内生産縮小を相次いで打ち出した。14年には三井化学が鹿島工場停止、旭化成が複数の汎用石化プラントの停止計画をそれぞれ表明した。宇部に続いて、住化もカプロラクタムの旧式設備停止を表明。国内汎用石化の大規模な生産体制見直しは一段落した。

経産省の13年工業統計によると化学工業の従業員数は33万9708人、出荷額は27兆4092億円。

## 業績推移(業界平均値)

単位:百万円

決算期	2013/03	2014/03	2015/03
売上高	1,367,837	1,540,642	1,558,203
営業利益	36,680	56,529	69,306
経常利益	37,870	55,661	75,075
当期純利益または当期純損失	2,250	22,268	33,386
純資産額	474,006	528,482	617,129
有利子負債	554,744	563,258	576,338
営業活動によるキャッシュフロー	84,125	100,813	122,977
投資活動によるキャッシュフロー	-89,847	-75,174	-73,883
財務活動によるキャッシュフロー	4,928	-17,778	-43,448
ROE	0.62%	5.60%	7.37%
ROA	2.39%	3.56%	4.24%

各社は高付加価値分野の強化を進める。世界的な車の低燃費規制を見据えて旭化成はシンガポールで省エネタイヤ用合成ゴム増産を加速する。住友化学は電気自動車(EV)に使うリチウムイオン2次電池の部材を増産する。大江工場(新居浜市)で15年春までに高温に強い絶縁材「セパレーター」の生産能力を3割引き上げるほか、韓国に新工場を建設。2017年から稼働させる。テスラ・モーターズのEVが搭載するパナソニック製の電池向けに供給される。

三菱ケミカルHDは大陽日酸を約1000億円で買収した。買収により伸びる米シェールガス関連事業に参入する。日本の化学会社で初めて売上高4兆円に手が届くことになる。(2015/09/29調査)

# 総合化学:市場動向と主要プレーヤー

## 市場動向

### 海外進出するも中国勢増産で採算悪化

総合化学をめぐる経営環境は大きく変化しつつある。国内需要が低迷する一方で、新興諸国を中心にグローバル市場は拡大。中東や中国ではポリエチレンなどの汎用樹脂を大量に生産する設備が相次いで稼働、国際競争が激化している。

石油化学工業協会がまとめた石化基礎原料のエチレンの12年の国内生産量は前年比8.1%減の615万トン。減少は2年連続で、リーマン・ショックの影響を受けた08年の688万トンを下回り、94年(612万トン)にほぼ並び、この20年間で3番目に低い水準となった。13年は669万6000トンと上向いたが、14年の生産量は0.7%減の664万7000トンと再び落ち込んだ。日本全体のエチレンの生産能力は721万トンで推移し、内需が年500万~550万トン、輸出が年200万トンでフル操業状態になる計算だが、現状は内需が500万トンを割り込んでいる。

エチレン設備の稼働率は損益分岐点とされる90%を長い間下回ってきたが、14年度は5月に三菱化学・鹿島1号基が停止したことや、プラントの定修が多い年度であるため、生産能力の減少が見込まれる。稼働率も4年ぶりの90%台に乗せた。15年5月には、住友化学が千葉県でエチレン生産を停止。三井化学は15年3月に丸善石油化学と住友化学と運営してきた「京葉エチレン」から離脱。同時期にアジアの大規模定期修理が重なったほか、一部のプラントで生産トラブルが相次いだため、アジア市場ではエチレンの需給が引き締まった。国内の最適生産体制を整えたところに、アジア市況の改善が重なり、エチレン設備の稼働率は90%台を維持している。ただ、中長期的には、国内は高付加価値製品への特化や再編で生き残りを目指し、持続成長のために高いシェアを持つ製品、技術で差異化を図れる分野に限定して海外へ生産をシフトする企業が増える見通し。ただ中国の化学品メーカーの大増産の影響は大きく、海外進出したとしても汎用製品は採算に苦しむ傾向がある。(2015/09/29調査)

## 業界主要プレーヤー(売上高上位10社)

単位:百万円

		企業名	決算期	会計基準	有報短信	売上高・営業 収益	営業利益	経常利益	当期利益	資本金	期末従業員 数(人)	時価総額(直 近)
1	4188	三菱ケミカルホールディングス	2015/03	連結	有報	3,656,278	165,681	163,059	60,859	50,000	68,263	1,093,415
2	4005	住友化学	2015/03	連結	有報	2,376,697	127,346	157,414	52,192	89,699	31,039	1,158,812
3	3407	旭化成	2015/03	連結	有報	1,986,405	157,933	166,543	105,652	103,389	30,313	1,039,900
4	有報	三菱化学	2015/03	連結	有報	1,942,985	19,435	21,264	-24,357	50,000	22,866	-
5	4183	三井化学	2015/03	連結	有報	1,550,076	42,040	44,411	17,261	125,053	14,363	459,909
6	4004	昭和電工	2014/12	連結	有報	876,580	20,915	22,102	3,500	140,564	10,577	226,064
7	4042	東ソー	2015/03	連結	有報	809,683	51,397	60,197	62,297	40,633	11,594	404,401
8	4208	宇部興産	2015/03	連結	有報	641,759	24,147	23,228	14,649	58,435	10,702	261,252
9	有報	チッソ	2015/03	連結	有報	183,364	14,861	17,460	8,429	7,813	3,273	-
10	非上場	ケイ・アイ化成	2014/10	単独	日経調査	4,503	419	428	274	600	-	-

## 競合状況

コスト低減策に円安・原油安効果加わり総じて収益改善

15年3月期の各社決算は総じて最終損益が改善し、収益拡大が鮮明になった。コスト低減策効果に円安・原油安効果が加わるからだ。

住友化学の連結純利益は前の期比41%増の521億円だった。原油安で石油化学製品の採算が改善、飼料添加物も出荷増で計画を上回った。石油化学関連の合理化費用を特別損失として積み増したが、大幅増益を確保した。売上高は5.9%増の2兆3767億円。営業利益は26.3%増の1273億円。16年3月期の連結純利益は前期比53%増の800億円になる見通し。農薬や電子部品、医薬品等の販売が増える。減損損失などで15年3月期に654億円に膨らんだ特別損失が減る。

旭化成の連結純利益は前の期比4%増の1056億円になった。2年連続で最高益を更新。石油化学製品の市況が改善しており、輸出製品を中心に円安効果が出た。12年に買収した救急救命機器を手掛ける米ゾール・メディカルがのれん償却後で黒字に転換。アクリル繊維原料等も好調だった。売上高は前期比4.7%増の1兆9864億円、営業利益は10.2%増の1579億円。16年3月期の連結純利益は前期並みの1060円になりそう。エコタイヤ向けの合成ゴムの販売などが増えて営業増益だが、前期に51億円あった為替差益が縮小する見通し。引き続き最高益水準となる。15年8月に米ポリポア社のバッテリーセパレータ事業を約22億ドルで買収した。

三菱ケミカルHDは石油化学関連製品の市況改善や合理化効果が出た。売上高は4.5%増の3兆6563億円、純利益は88.7%増の609億円。大陽日酸の連結子会社化に伴う特別利益等を計上した。14年9月1日～16年8月31日までの2年間で2500億円を上限とする社債の発行登録枠を設定した。事前に登録枠を設け、機動的に資金調達できるようにした。16年3月期の連結純利益は前期比7%増の650億円、売上高は4兆円を見込む。7月16日、17年4月をめどに化学系3子会社(三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨン)を統合する検討に入ったと発表した。組織や機能の重複をなくす。各社の事業や技術の相乗効果をより発揮しやすく、高機能材に一段と注力する。3社の14年度の業績を単純合計すると売上高約3兆円、営業利益約760億円となる。

三井化学は最終損益が173億円の黒字(前の期は251億円の赤字)になった。前期に費用を計上した大型市況商品のポリウレタン材料、フェノール材料などの生産拠点最適化を目指した事業再構築が一段落した。営業利益は68.8%増の420億円。売上高は1.0%減の1兆5501億円。原油価格の下落で石油化学製品の価格が落ち込んだ。16年3月期は原油価格下落に伴う石油化学の採算改善に加え、自動車向けポリプロピレン材料が好調に推移している。

宇部興産は売上高は1.3%減の6417億円。カプロラクタムの市況低迷に加え、リチウムイオン電池に使うセパレーターと呼ぶ部材の販売伸び悩みが響いた。営業利益は1.1%減の241億円。16年3月期は連結売上高で6.7%増の6850億円、純利益で16.0%増の170億円を見込む。

東ソーは売上高が4.8%増の8097億円、純利益が2.1倍の623億円。14年10月の日本ポリウレタンとの合併に伴い、引き継いだ欠損金に対する繰り延べ税金資産を計上した。石油化学、クロル・アルカリ(ウレタン原料・苛性ソーダ等)、機能製品(ゼオライト・ジルコニア等)各事業とも堅調な伸びを示した。16年3月期は連結売上高で8100億円、純利益で430億円を見込む。

昭和電工の14年12月期の連結決算は、売上高が前期比3.6%増の8785億2400万円。石油化学部門はエチレン生産設備の大型定期修理の影響で減収となったが、他部門はいずれも数量増から増収だった。営業利益は19.0%減の210億1900万円。化学・エレクトロニクス・無機化学の各分門は増収だったが、石油化学は定期修理に加えて、期末のナフサ価格急落で大幅減益。アルミ部門は地金高で減益。中期経営計画最終年度に当たる15年12月期の目標売上高は2.4%増の9000億円、営業利益は90.3%増の400億円。

各社の15年4～6月期決算を見ると(昭和電工のみ15年1～6月期決算)、住友化学、三井化学、昭和電工が減収増益(利益増は主に交易条件の改善効果)、旭化成、三菱ケミカル、東ソー、宇部興産が増収増益だった。三菱ケミカルは大陽日酸買収効果が続き、東ソーは塩ビモノマーの生産能力増強効果に円安効果が加わった。(2015/09/29調査)

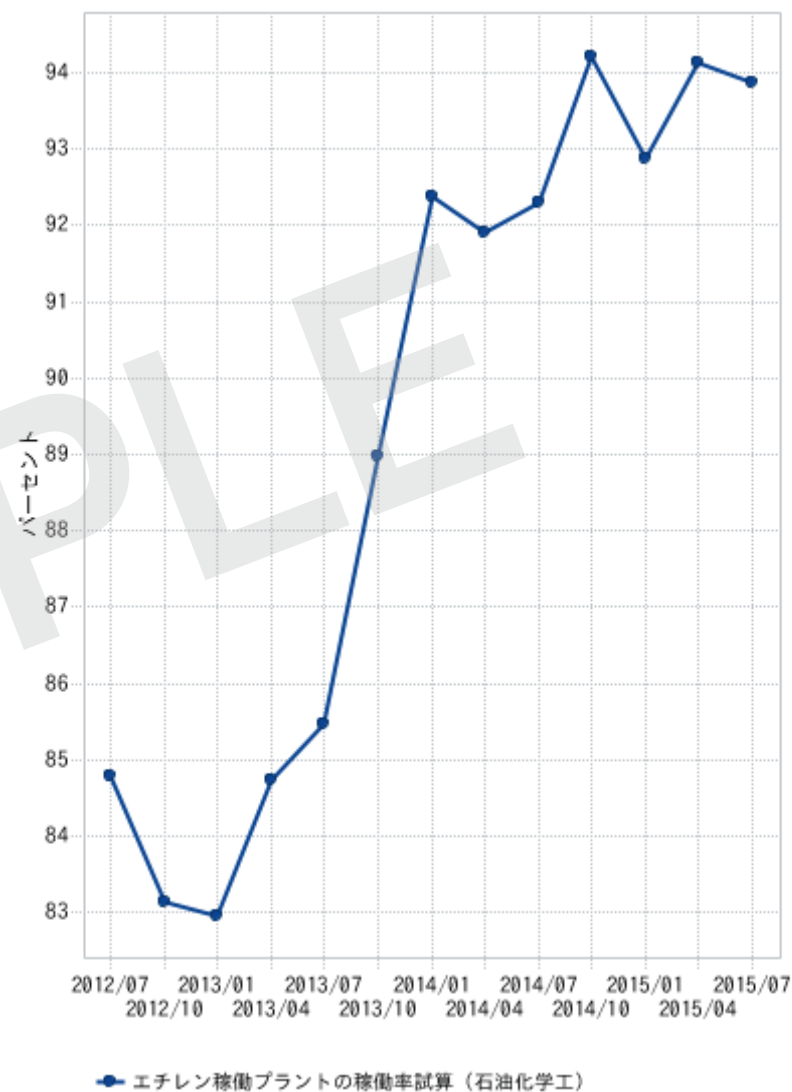
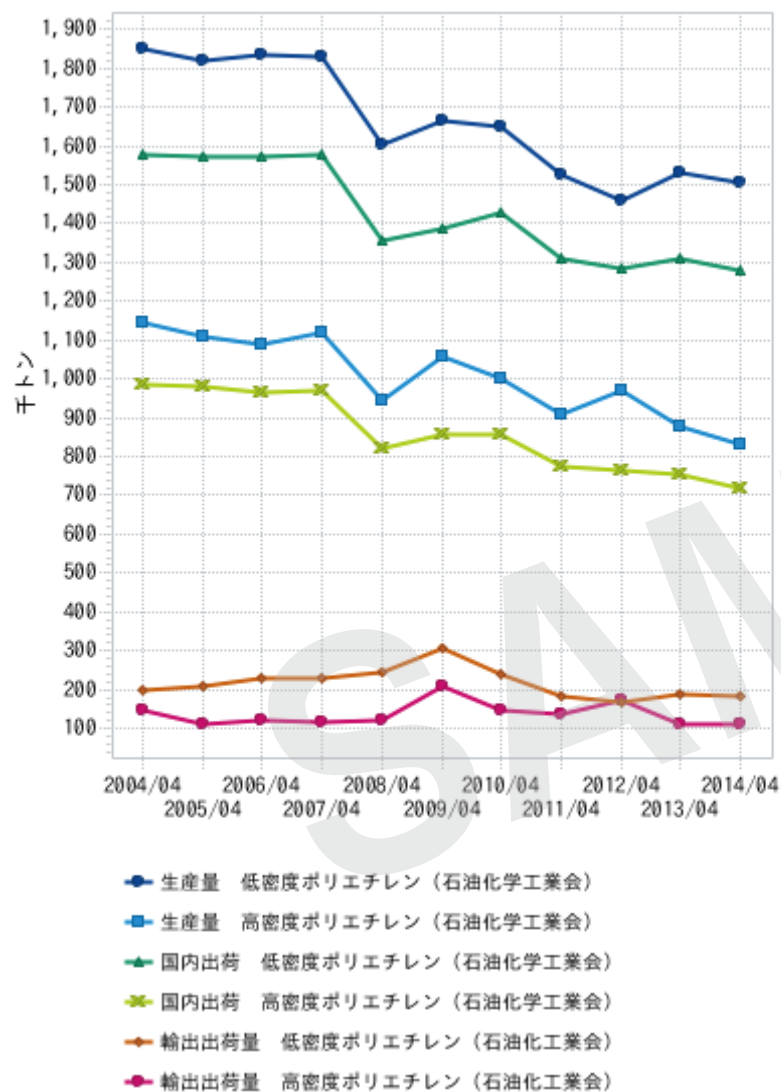
# 総合化学:事業セグメント比較

## 事業セグメント比較

		会社名	決算期	会計基 準	セグメント名称	売上高	事業内容
1	3407	旭化成	2015/03	連結	ケミカル・繊維	972,838	ケミカル<石油化学系>硝酸、カ性ソーダ、アクリロニトリル、スチレンモノマー、MMAモノマー、アクリル樹脂、ポリエチレン「サンテック(TM)」、ポリスチレン 等<高機能ポリマー系>スチレン系樹脂「スタイラック(TM)-AS」・「スタイラック(TM)-ABS」、ポリアセタール樹脂「テナック(TM)」、変性PPE樹脂「ザイロン(TM)」、アジピン酸、ナイロン66樹脂「レオナ(TM)」、合成ゴム 等<高付加価値系>塗料原料、ラテックス、医薬・食品用添加剤「セオラス(TM)」、火薬類、金属加工品、中空糸ろ過膜「マイクロザ(TM)-UF」・「マイクロザ(TM)-MF」、イオン交換膜法電解装置、「サランラップ(TM)」、「ジップロック(TM)」、各種フィルム・シート、発泡体 等繊維ポリウレタン弾性繊維「ロイカ(TM)」、再生セルロース繊維「ベンベルグ(TM)」、スパンボンド「エルタス(TM)」・人工皮革「ラムース(TM)」等の不織布、ナイロン66繊維「レオナ(TM)」 等
2	4005	住友化学	2015/03	連結	石油化学	815,051	石油化学品、合成樹脂、合成ゴム、合成樹脂加工製品等
3	有報	三菱化学	2015/03	連結	基礎化学品	799,943	基礎石化製品、化成品、合成繊維原料
4	4183	三井化学	2015/03	連結	石化	722,120	エチレン、プロピレン、ポリエチレン、ポリプロピレン
5	4005	住友化学	2015/03	連結	情報電子化学	409,618	光学製品、カラーフィルター、半導体プロセス材料、電子材料、化合物半導体材料、電池部材、タッチセンサーパネル等
6	4005	住友化学	2015/03	連結	医薬品	403,573	医療用医薬品、放射性診断薬等
7	4005	住友化学	2015/03	連結	健康・農業関連事業	367,529	農薬、肥料、農業資材、家庭用・防疫用殺虫剤、熱帯感染症対策資材、飼料添加物、医薬化学品等
8	4183	三井化学	2015/03	連結	基礎化学品	342,139	フェノール、ビスフェノールA、高純度テレフタル酸、ペット樹脂、エチレンオキサイド
9	4042	東ソー	2015/03	連結	石油化学	331,798	エチレン・プロピレン等オレフィン製品、低密度ポリエチレン、高密度ポリエチレン及び樹脂加工製品、機能性ポリマー等の製造販売をしております。
10	4005	住友化学	2015/03	連結	基礎化学	325,239	無機薬品、合繊原料、有機薬品、メタアクリル、アルミナ製品、アルミニウム、機能性材料、添加剤、染料等

※角括弧[]付きのセグメント名称は事業セグメントの開示が無いもので、売上高合計を掲載。角括弧[]内は業種名。

# 総合化学: 主な業界統計



## 最近実施・公表された企業活動

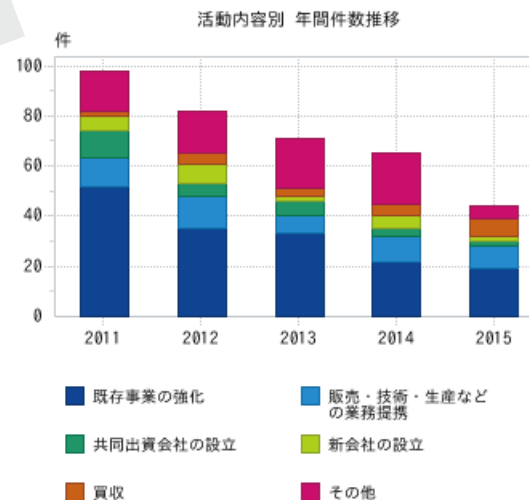
タイトル	活動内容	発表日	更新日
宇部興産は化学材料PCDの生産能力を増強	既存事業の強化	2015/10/20	2015/10/20
三井化学の中国地域統括会社は北京に支店を開設	既存事業の強化	2015/10/02	2015/10/02
旭化成は宮崎県日向市に絶縁材の生産ラインを新設	既存事業の強化	2015/09/29	2015/09/30
東ソーはフィリピンのマブハイ・ビニル・コーポレーションをTOBにより子会社化	買収	2015/09/29	2015/09/29
旭化成の米子会社はイスラエルの医療機器メーカーを買収	買収	2015/09/18	2015/09/24
日本曹達など7社はブラジルの農薬販売会社イハラプラスの株主割当増資を引き受け	少数資本参加	2015/09/18	2015/09/28
宇部興産はリチウムイオン電池用セパレーター設備を増強	既存事業の強化	2015/09/16	2015/09/16
宇部興産と三和化学研究所は難治性のかゆみ治療薬を共同開発	販売・技術・生産などの業務提携	2015/09/10	2015/09/10
昭和電工はリチウムイオン電池向け包装材の生産ラインを増設	既存事業の強化	2015/09/04	2015/09/07
旭化成は電池材料セパレーターメーカーの米ポリポアを買収	買収	2015/08/27	2015/08/27

過去5年の主要活動内容の内訳(数表)

	既存事業の強化	販売・技術・生産などの業務提携	共同出資会社の設立	新会社の設立	買収	その他
2011	52	11	11	6	2	16
2012	35	13	5	8	4	17
2013	33	7	6	2	3	20
2014	22	10	3	5	5	20
2015	19	9	2	2	7	5
合計	161	50	27	23	21	78

単位:件数

過去5年の主要活動内容の内訳(図)



SAMPLE

本資料に掲載された情報は、信頼できると思われる情報源から、本資料の作成時点までに入手された各種情報・データに基づくものですが、その正確性及び完全性に関して、日本経済新聞社（以下、日経）、情報提供者は、一切の責任を負うものではありません。本資料の利用によって生じた直接的・間接的な損害については、その内容・態様を問わず、日経および情報提供者は、一切の責任を負うものではありません。本資料の情報は、有価証券への投資その他の取引の勧誘を目的としたものではなく、また、有価証券の価値等または金融商品の価値等の分析に基づく投資判断に関する助言を行うことを目的としたものでもありません。本資料のいかなる部分についても、一切の権利は、日経および情報提供者に帰属しており、方法の如何、有償無償を問わず、無断で第三者へ複製物を提供したり、転送等を行ったりしないようお願いいたします。（海外企業データはFactSet Research Systems Inc.の提供です）